

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400037		
法人名	社会福祉法人 柘野福祉会		
事業所名	グループホーム四条大宮		
所在地	京都府京都市下京区大宮通綾小路下る綾大宮町52番地		
自己評価作成日	平成30年7月5日	評価結果市町村受理日	平成30年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kan=true&JyogyoCd=2690400037-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1F
訪問調査日	平成30年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方にとって暮らしやすい環境について常に考え、利用者一人一人の生活のリズムを大切に、それぞれの方に合った個別支援を実施するように努めています。
 四条大宮駅からすぐ近いこともあり、周辺には商店や食事処が点在しており、気軽に買い物や外食に出掛ける環境が整っているためホームの中のみで支援するのではなく、出来る限り外に出掛け、他者と関わる機会を設けています。また、ご家族との関係の継続についてもどうすれば実現できるか思索しながら取り組みを行っており、納涼祭、開所記念行事、敬老会(しやぶしやぶ)、忘年会(蟹すき)を毎年開催し交流の機会を大切にしています。馴染みの職員となることが利用者様が落ち着いて過ごす為に重要であると考え、職員の希望や関係の調整、教育について考え、継続して働きやすい職場を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム四条大宮(以下ホーム)は「認知症の方にとって暮らしやすい環境」の確保を主軸にケアに取り組まれています。職員は50歳台を中心に現場経験平均10年以上、資格は7割近くが介護福祉士等取得者で在職中の取得者もおられ、人材面では安定しています。管理者は勤務を継続する上で抱える私生活面での課題を把握し、少しでも職員が長く勤務が継続できるよう休暇等も視野に、認知症を持つ利用者との馴染みの関係が継続できるよう取り組まれています。これらの成果が退職者が少ないのも当ホームの特徴といえます。また当ホームでは、月1回の職員会議やケース会議が時間外に設けられ、職員は情報共有の大事な機会と、夜勤対応職員以外全員参加で会議に臨み、職員間の情報交換や共有に努めておられます。ケアにおいては利用者の「やりがい・楽しみ・独自性を大切に」、一人ひとりのペースに合わせた支援ができるよう、年1回職員と1対1の個別外出、日常的には利用者がホーム以外の人達と交わる機会をと、小まめに買い物同行等身近な外出機会を活かし実行されています。このように職員が一体となり取り組まれている姿勢と実践に声援を送りたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“笑顔と信頼を大切にあなたらしい生活のお手伝い致します”という事業所理念のもと目標達成を目指して4月に本年度の目標を職員全員で検討して設定している。事業所内の目にとまるところに掲示して意識できるように心掛けている。	開設時事業所理念を職員会議で話し合い決めている。以後事業所理念を踏まえ年度当初に職員会議で当該年度の目標をみんなで決め実践を目指している。同時に職員一人ひとりから、ホームの良い点、課題、認知症ケア等について、加えて個々の職員の休暇の取り方や個人で抱えている公私の課題・要望について記入を求め、新年度をスタートしている。組織の目標は職員が目につくやすい場所に掲示し周知を図っている。	ホームの理念・目標は「おたより」やパンフレットに載せ家族とも共有されてはいるがどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟し、地域行事に毎回参加している。また、事業所行事の案内を回覧板で報告し、参加してホームの事を知っていただく機会を作っている。また、日常的には買い物や美容室の利用を通して交流している。	開所当初より町内会に入り、回覧板を通し地域情報を把握し、地域の行事に参加し、また当該事業所の行事案内等も掲載させてもらっている。防災訓練を共にし、顔見知りも多くなり、今やホームとして地域に還元できることはないかと模索中であるが、認知症の相談や、近隣住民から入居の申し込みも寄せられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	下京4学区の地域ケア会議の参加、他有料老人ホームでのサポーター講座の実施を行った。また、今後地域ケア会議、支えあい活動を通し認知症の人の理解や支援方法の取り組みが実施で切ればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで発生した事故や行事職員の紹介、研修等について報告。地域の方からは、さまざまなアドバイスや地域の情報を教えていただき、サービスに繋げることができている。	利用者・家族代表・併設施設利用者・家族代表・地元の自治連合会会長・島原地域包括支援センター職員、綾大宮町会長などがメンバーである。会議は、事業所からは利用者の生活の様子や行事など紹介し、参加者からは「薬の管理どうされている」等質問も多い。地域包括センターから地域の催しの紹介などもあり、参加している利用者もある。地域の方からの情報提供やアドバイスなど内容が広がってきている。今後は、ブログに載せている写真を見せ利用者紹介に活かそうと考えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	下京区役所へ運営推進会議での内容の報告を定期的に行っている。28年度下京区役所の方の会議出席もあったが最近では殆どなく、課題である。今年度より下京地域包括運営協議会の構成員となった為積極的に参加していきたい。	運営推進会議記録を区の担当課へ持参し報告に行っている。当該ホームの管理者が30年度下京地域包括運営協議会の構成メンバーに推薦され会議に参加。当会議では災害の情報等今まで得られなかった幅広い情報が得られ、ホームの運営にも参考になる部分が多く、これらの幅広い地元の情報を活かし、あらたな運営展開を模索してゆきたいと考えられている。	

京都府 グループホーム 四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化に関する指針をもとに委員会を実施。また研修を通して普段の支援で自分たちが知らないうちに身体拘束を行っていないか等を振り返り、ケアの改善に努めている。	法人内の全GHIは現在課題になっている身体拘束に関する指針について委員会を設、4回委員会を開催することになり、身体拘束の理解を深め日頃の実践に対し見直してゆくことになった。当面ホームでは職員会議において10分から15分、身体拘束の研修を継続実施している。ホームでは利用者には動きを期待することが多く、普段の生活面での拘束の実績はないが、スピーチロックなどは今後の課題と認識されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアル、権利擁護マニュアルをもとに事業所内で研修を行い、職員間で意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を実施し、ご家族からの相続や管理等のご相談の際には、制度についての説明や相談窓口等の紹介等を行うよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間を確保していただき、出席していただける方全員に説明を行っている。利用料金等改定時は説明を行い、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老行事と忘年会はご家族にも参加していただく行事を企画し、1日ゆっくりと利用者・家族・職員で話ができる機会を作っている。また、そこで得た情報について会議で検討も行っている。満足度アンケートを作成したがまだ実施していない。	家族の訪問時には職員は話を交わすよう努めている。納涼会、開設記念行事、敬老会、忘年会には家族に参加を呼びかけ中には食事を共にし、利用者と共にゆっくりした時間を過ごせるよう企画され、訪問リハの先生の参加も得て、家族から意見や提案などを期待し、出された意見等は職員会議で議題にし検討をしている。この度家族アンケートを作成しているが、実施には至っていない。	家族との関係の継続を大事に具体的な取り組みを長年やってこられ、すでにご家族との一定の関係づくりは出来ていますが、定期的にケアや運営面に対し、ご家族の声を得て、確信を持ち事業運営に臨まれることを期待し、作成されたアンケートの実施をおすすめします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のコミュニケーションや連絡ノートで意見を表せる機会を作り、必要に応じて職員会議で話し合いを実施。管理者会議では法人内のグループホームの管理者、本部職員と取り組みについて情報交換や業務改善を図っている。	当ホームの職員会議は月2回、夜の7時30分から10時まで、必ずしも出席を強制されているのではないが、夜勤者以外全員が集まり開催されている。議題は1ヶ月のホームにおける情報を整理しまとめ全職員で内容を検討し、共有している。時には、職員の提案に対し、例えば、食べさせにくい食事について、調理の仕方、ケア食の作り方の疑問に、職員同意のもと夜間に勉強会を持ち学習している。なお、現場の課題については法人の管理者会議において情報交換や業務改善が図られる場がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人のDo-CAPシートによる自己目標やチーム目標を策定し、管理者が個人面接を行い目標達成に向けてのプランを話し合っている。また、パート職員には年2回アンケートを実施し面談を行っている。		
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内研修を開催し、チームでのサービスの質の向上に努めている。法人本部の研修や外部研修へも個々の能力や興味に応じて参加できるよう調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型居住系委員会に入会し、定例会議や研修に参加。2ヶ月に1回事例検討会があり他事業所の事例検討をすることで現在事業所にはない事例を学んだり新たな発見や自分自身を見直す機会となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活について十分に情報収集を行い、日常で新たな情報を得た場合は記録し、ケース会議で周知。また、入居前と出来るだけ環境の変化を少なく、今まで通りの生活が出来るよう要望を大切にすることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係者の方のご意見を伺い、ご家族との関係継続の為にできることがないか常に心掛けている。入居時間がたつと機会が少なくなりがちである為どうすれば機会を増やせるか課題もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の関係者からも情報収集を行い、家族、本人の希望を伺った上でグループホーム以外のサービスについても説明。また、必要に応じて医師や看護師の意見を確認してできることを広げたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事を一緒に行い、どうしたいか、どうすれば上手いかわ、その人のやりやすい方法について教わるという姿勢を大切にしよう心掛けている。また、自発的にして下さる事に対し見守りお礼を伝える事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支援していく姿勢を大切に、相談、同意を得たうえで実施するようにしている。通院については出来るだけご家族に行ってもらい、食事をしたり、行事等に参加して頂ける様機会をつくること、面会時に気持ちよく過ごして頂ける様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っていた場所があれば行けるように企画し、顔見知りの人と会う機会、家族の行事等になるべく参加できる様に調整を行っている。	ターミナルの利用者に、家族や親戚が集まり事業所の相談室を借り、食事会をされている例もある。孫の運動会見学、墓参、法事、知人の訪問、以前住んでいたケアハウスの友人の訪問などがある。毎年6月実施の個別レクリエーションは日頃から行きたい所や利用者にとって懐かしい場所などを職員が聞き職員と1対1で出かける楽しい催しである。以前絵画教室に通っていた利用者は職員と一緒にスケッチに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係が構築されており、好き嫌いがあるものの、助け合い、仲良くしている様子もある為、その機会を大切にしている。一緒に協力し合える様な余暇や家事を提供すると笑顔が増えるためその活用することが多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望に応じて相談や支援できるようにと思っている。終了後お連絡をして迷惑にならないかとも考え頻度が難しく思案している所でもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなことの把握に努め、希望を出来る限り叶えるよう支援している。朝食時に牛乳が欲しい、等々ささいな所で一人一人違う支援を実施。また、職員と1対1で馴染みの場所に出掛けることで新しい一面や意見を聞く事が出来ています。	入所に当たり、アセスメントに係る関係用紙に家族に内容を書いてもらい、本人、関係者からも情報を収集し、他に日常生活から得た新たな情報は記録に残しケース会議で周知を図っている。大事にしていることは、今までの生活が継続できるよう当事者の要望を大切に、やりがい、楽しみ、個性の発揮を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集シート、課題分析表、サービス計画書を用いて各利用者の理解をする機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活のペースを重視し、起床時間やゆっくりしたい時間、何かをしたい時間等職員のペースにならないように心掛けている。また職員ができる事に着目できるよう視点の誘導を行っている。		

京都府 グループホーム 四条大宮

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録を月ごとでまとめ、毎月モニタリングし、ケース会議、職員会議で周知、支援方法の検討。また、家族とのやりとりを引き継ぎノートで確認し、意見やアイデアについても記入するようにしている。	記録は法人の書式とセンター方式の一部を併用し利用者・家族からの情報が記入されている。ホームでは入居当初の利用者の情報を多く収集するために日常の会話や様子の記録を記入する用紙を設け壁に貼りだしている。それらを見て担当者や介護支援専門員は利用者の個性が見える介護計画書を作成している。ケース会議は月1回ケース記録をまとめモニタリングをしている。サービス担当者会議には利用者・家族が出席している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化もケース記録に残すように努めているがIT化についていけない面もある。気になる事や相談については利用者ノートに書いたり口頭で申し送り記述できるものを行う等し把握に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が通院予定であったが間に合わない場合は途中まで支援したり、外出している際に突然の面会があった際は外で待ち合わせし、帰宅支援の日程を自由に変動したりとその時の応じた支援を心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	好みの美容室やスーパーや商店、近所の喫茶店等に出かけ、地域の方との交流を図っている。近隣の病院への通院、公共交通機関の利用等も積極的に活用。また、近所の方が月に1度ボランティアに来て下さることで世界が広がっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、主治医の希望並びに緊急時の搬送先を確認している。内科、歯科、皮膚科の医師が定期的にホームに往診にきてくださっており、希望の往診医があれば受けられるように支援している。	入所時に、かかりつけ医や搬送先の病院についての希望を確認している。ホームには内科、皮膚科、歯科、精神科医等の他、2ヶ所の歯科医、皮膚科医、訪問診療医も来訪され受診ができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4日出勤して下さる看護師と情報の共有が図りやすいよう勤務を調整、また必要に応じて電話で指示をもらう事ができている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入退院時はご家族や病院との間に入り、連絡や報告、相談等の連携を図っている。また入院中は面会に行き、状態の変化等の確認や、ご家族やご本人の相談に対応できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取り時の対応についての指針を説明している。状態変化時はご本人・ご家族の意向を再度確認し、医師と連携し、意向にそえるよう取り組むほか必要に応じて職員で話し合う機会を設け振り返りを大切にしている。	入居時に「重度化看取りの対応指針」をもとに説明し同意を得ている。開設来2名のターミナルケアを経験している。入居後状態変化に際し、今後の意向を確認し、体制を整え看取りを行っている。24時オンコールの看護師や往診医と連携し、職員全員で関わっている。先般、急なことであったが、ホームで家族と共に利用者を見送っている。経過、職員対応については職員による振り返りの記録が作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに基づき、研修を行っている。職員会議では事故発生時の初期対応や医師・看護師への連絡の必要性について振り返りや検討を実施。また混乱せずに対応できるように全員が解る場所にファイルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練や防災研修を同一建物内の事業所と合同で実施、BCPを作成している。地域の防災訓練に参加、今後協力体制がとれるような取り組みをしていきたい。	避難訓練は併設施設と合同で年2回消防署立会いのもと実施し、地震想定訓練は年1回実施している。防災研修は法人内の他のグループホームと合同で行っている。ホームには防災委員会が設けられ地域の防災訓練に参加している。先日の大阪府北部地震ではエレベーターが止まり利用者が使用できなくなった。また、平成30年7月の豪雨では避難勧告が発令され2階以上に避難した。ただ、交通機関マヒのため職員が勤務につけなかったり、食材の配送が滞り、急遽近くのスーパーなどで確保した。法人ではBCP(事業継続計画)が設けられており、今回経験した課題をもとに、今後の対策を講じる予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守るように心がけている。特に大勢の方がいる食堂での言葉掛けや対応については、十分に注意を払うように努めているが時折配慮に欠けることもあり、振り返りの機会を会議で設けている。	居室は個室で扉は閉められ、プライバシーが守られる体制はある。ノックや声かけをに対応している。利用者が1日の大半を過ごすリビングでは、会話や触れ合いが多くあるので、声かけが大きくなったり、スピーチロックなどが起きやすい。利用者の大切な共有空間での関わり方を職員会議で振り返り気をつけている。研修は法人マニュアルと基本項目を確認しながら、現場でやれているかを確認し合う時間を設け実践に臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や行動、表情等から思いをくみ取り自発的な行動に対し出来る限り希望に添えるよう努めている。意思表示の困難な方にも表情や様子を観察し可能な限りコミュニケーションを図るよう意識するよう努めている。		

京都府 グループホーム 四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないよう可能な限り声を掛けあい一人一人のペースに合わせた支援が出来るよう努めている。時間をずらしたり、待つ頂く事もあるが、外出等も希望がある時に出来るよう努めているが重度化もあり困難なこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や整髪の声掛けをしたり服装が乱れている時は整えている。外出時は普段と違うものを着て頂けるように声を掛けたり、自ら更衣される方には早めに声を掛け待つ時間を設けている。希望があれば美容院への送迎を実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けは出来るだけご利用者も一緒にして頂いている。味付けを教わったり、ドレッシングやソースは好みの物を選んで頂きかけてもらう。雑誌や会話の中で食べたい物を聞いて、献立にも取り入れている。	献立は利用者の要望や、従来の献立を参考にたてている。食材は近所の店に買い物に行き調達。調理は職員間で分担し当たっている。利用者には、おしぼり作り、皮むき、野菜のヘタ取り・筋取り・洗う・切る・衣づけや調理、食器拭きなど、利用者の取り組めるところを分担してもらっている。片付けも全員で何らかの参加を目指している。おやつは作業参加がむつかしく、市販の懐かしいお菓子などを出している。時々たこ焼きやベビーカステラを作ることはある。お茶碗・湯呑・箸は各自持参されたものを使用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に確認してもらいアドバイスを受けた献立を使用、季節の食材を取り入れたり、食事制限のある方や低栄養の方、覚醒状況に合わせて夜中に食事を摂る方への対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者に週2回の義歯洗浄実施している。起床時、就寝前は必ず実施。毎食後できていないこともあるが以前よりも力を入れており今後全員ができる体制を検討している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくリハビリパンツを使用せず排泄用具を状態に合わせて変えている。一人一人の排泄パターンに合わせた声掛けや誘導を行っているが年々介助の必要な方は増えている。	居室にトイレが設置されトイレでの排泄を進めているが、個々の排泄状況により排泄用具を合わせ対応されている。日中布パンツで過ごされている利用者は半数強おられるが布パンツにパットを使用する人が高齢化に伴い増えてきている。排泄チェック表を設け声掛け、誘導をしリハビリパンツ・パットなどの使用を抑制するよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ごとに薬だけでなく毎朝牛乳やヨーグルト、スムージー等を提供。排便が困難な場合は事前に医師の指示を仰ぎ排便コントロール出来るように努めています。		

京都府 グループホーム 四条大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の予定をたて、時間については当日に希望を聞いて了承を得たうえで入浴。毎日の希望の方は毎日確認、拒否や入眠で入れない場合は日を改めたり清拭をしている。	基本は週2回となっているが、ニーズがあれば毎日入浴される方もおられる。一方、入浴を嫌がられる人もあり、2人の職員で話しかけながら誘導することもあるが、無理強いはいしない。浮腫や寝つきにくい場合は居室で足浴をされる場合、入浴の代わりに清拭をする場合もある。菖蒲湯やゆず湯の季節湯、自分の好きな入浴剤の使用、シャンプーやリンスも好みのものの使用は自由である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間一人でいるのが不安な方は就寝までリビングで過ごして頂いたり、覚醒状況の不規則な方は時間に関わらず入床まで一緒に過ごし安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を作成し各利用者が何の薬を内服しているかや注意点等がわかるようにしている。薬剤変更があった際の観察や注意についても情報を共有し、薬剤師との情報交換、相談がしやすい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限りで得意な家事をして頂いたり、趣味や興味のあること、昔からの習慣をホームでもすることが出来るよう環境作りを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天の為室内での行事となることもあったが地域のボランティアさんと一緒に出掛けたり、希望を聞いて外食をしたり行きたい場所に行く等一人一人に合わせた外出支援を行っている。	周囲は商店も多く、ほぼ毎日近くのスーパー等の買い物に職員と出かける人。ゆっくり歩いて近くの喫茶店へ出かける人。職員やボランティアさんと、タクシーに分乗し大型ショッピングセンターなどに出かける人もある。事業計画に沿って季節に合わせて花見・藤棚鑑賞・植物園・祇園祭・節分会などには全員で出かけている。このほか6月には職員と1体1で利用者の決めた外出先に出かけている。これらの様子はブログやおたよりで家族に知らせている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金への不安がある方は、管理が難しくなられてもご家族協力のもと所持。外出時の支払いの手伝いをしたり、残額を確認してご家族への連絡等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人への電話の発信や着信時の取次、携帯電話の操作説明等を行い、外部へ気軽に連絡出来るよう支援している。		

京都府 グループホーム 四條大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様、毎月利用者と一緒に折り紙などで壁紙を作成し、廊下に展示。オープンキッチンで食事作りの音やにおいがあり、昔懐かしい歌や心地よい音楽が響いている。	ホームはビルの2階にある。エレベーターを降りると即ホームの玄関となり、かわいい草花や小物が飾られ、堅苦しさはない。玄関からリビング・ダイニングの明るい室内や、オープンキッチンから利用者と職員の会話が聞こえアットホームな雰囲気を感じられる。手作りのテーブルクロスが掛けられた大きさの異なるテーブルが配置され、利用者は馴染みの席なのか座って寛がれている。壁にはフェルトで創られた母の日のカーネーションや、祇園祭のお札がひとときわ目立ち、季節が感じられる。リビングにつながる広めの廊下の片側にはソファや椅子・本棚・金魚鉢・マッサージチェアが置かれ、自由にくつろげるコーナーになっている。テレビはおかれているが、食事中はテレビは消されBGMが流れている。適切な照明、空調、湿度管理のもと室内は利用者の談笑が混じり、居心地のいい共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを通じて談話したり、アルバムや本などを準備したり、廊下椅子に座り金魚を眺めたり部屋以外でもゆったりと過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の馴染みの物や愛着のあるものを持ち込んでいただき、利用者・家族・職員と一緒に相談しながら、その人らしい部屋作りを行っている。期間を設けて安全に過ごせるよう福祉用具を導入されている居室もある。	居室は、事前にホーム側で、エアコン・ナースコール・洗面所・トイレは準備されている。これら以外の、ベッドやカーテン、個人の机や整理ダンス、テレビ、椅子、仏壇など夫々馴染みものが持参されている。タンスの上や壁面には写真や絵画を飾っている人、壁面に多くのものが飾れるようにパーテーションを利用されている人など、夫々個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険個所の見直しを必要に応じて行い自分で安全に移動して頂ける様に支援している。		